

ニュース、写真、催し案内などのご連絡は下記へ
赤旗東京総局 03(3370)8325、ファクス(3370)8326
日本共産党東京都委員会 03(3370)0311(代)

学力テスト体制

私はこう考える

学力テストでの不正をきっかけに、東京都足立区が学力テストの学校の順位をつけた公表と成績による予算の格差付けの方針を撤回しました。同時に区は、区独自の学力テストを引き続き実施する方針は変えていません。学力テストと学校評価、学校選択制などの問題点について、教職員、研究者から聞きました。

足立区教育委員会は、も含めた学校への管理学力テストの公表の仕方・統制を強めるもので、学校の順位付けをしなくなるのではないかと懸念ないことを決めました。これは、現場の教職員や父母、住民の声が、区を追い込んで動かした大きな成果です。しかし区教委は、学校ごとの正答率の分布のグラフや、とりくみ内容など、今後も、いろいろな形でテスト結果の公表をしていく方針は変えていません。これが学校評価・教員評価という形で使われ、教育内容

都教組足立支部 橋本敏明書記長



結びついているからです。

政府施策先取り

足立区は、政府の「教育再生会議」が進めている全国一斉学力テスト、格差予算、習熟度別指導拡充、学校選択制の導入、学校にたいする外部評価・監査システムの導入など、競争をあおり、格差を拡大する政策を先取りして実施してきました。

教育基本法が改悪される前の昨年四月には、改

悪の方向にそった形で「足立区教育基本計画」を策定しました。区が各学校に、「学校経営方針」を策定させ、「教育目

針」を策定させ、「教育目標」をあげさせて、「区学力調査平均到達度5ポイントアップ」「漢字ドリルの学年平均点85点以上」など数値目標を決めさせ、その達成を求めるものとなっています。区教委が設置した「学校支援委員会」は、取り組みの「成果検証・評価」をし、将来的には「第三者機関」として機能

民間の経営手法

昨年度から、文科省の「新教育システム開発プログラム」に応募し、民間コンサルタント会社も入れて「学力向上」を名目に、学校経営に民間の経営手法の「計画・実行・評価・改善」サイクルの導入をはかっています。これを基に、区教委による「学校経営支援」という形での予算配分や指導・助言、外部からの「学校評価」を可能にしようとしています。学校を査定し教員を査定するシステムになっているのです。

そういうなかでいま、足立区の教員は、長時間過密労働となり、私たちがのおこなったアンケート調査でも教員の四分の三がかぎりなく過労死に近

づき、ここ五年ぐらいにわたり毎年五人が現職死しています。希望をもたず退職する教員も多くなります。

区教委は学力テストの結果公表を学力向上・改善に役立てるために行っています。そうであれば普段の授業で勉強し、教師のつくったテストで日常的に達成度をみながら学力向上をはかっていけばいいわけで、すべての児童・生徒を対象にした一斉テストは必要はありません。学力テスト中心の勉強では、子どもたち

にしっかりと考えさせて身につけさせるよりは、ドリルで量をこなして覚えさせるものになり、本当の学力には結びつきません。たかひはこれからです。真の学力とはなにか、義務教育とはなにか、子育てとはなにかというところを、深く追求しながら運動を上げていくことが必要だと思っております。

学校評価し統制強化

(随時掲載)